

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 10 月 30 日現在

機関番号：32664

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K01166

研究課題名(和文)近代日本におけるキリスト教会の立地と都市形成の相互関係に関する地理学的研究

研究課題名(英文)Geographical study on the interrelationship between the location of Christian churches and urban formation in modern Japan

研究代表者

麻生 将 (ASO, Tasuku)

二松学舎大学・文学部・講師

研究者番号：00707771

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 800,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間全体では次の成果があった。A.1916～1940年の京都市、大阪市、神戸市、そして名古屋市のプロテスタント教会の立地状況のデータベースを『基督教年鑑』をもとに完成させた。B.データベースと並行で日本地理学会、人文地理学会、歴史地理学会、キリスト教史学会、二松学舎大学文学部シンポジウムで計5回の学会発表を行った。C.3本の論稿が雑誌に掲載された。うち1つは『キリスト教史学』75集で、査読付き雑誌である。残りは『地理』(商業誌)と『二松学舎大学論集』(大学内紀要)で、いずれも査読誌ではない。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は次の通りである。これまで解明されていなかった近代日本の都市部のプロテスタント教会の立地状況の変遷が明らかになった。また、近代の都市形成と教会立地が互いに関連することの解明への道筋が立った。そのため、都市部における宗教施設の立地の都市地理学的、歴史地理学的研究が進展すると考えられる。また、キリスト教史学研究においては、近代日本の教会立地の変化を通してキリスト教会の活動実態をより詳細に解明することができる。

一方、社会的意義は都市部の近代建築としての教会の立地と変遷を通して都市内のコミュニティの歴史(地域史)の再発見や観光資源の発見、コミュニティと教会の相互関係の再構築等が期待される。

研究成果の概要(英文)：The following results were obtained during the entire study period. A. A database of the location of Protestant churches in Kyoto, Osaka, Kobe, and Nagoya from 1916 to 1940 was completed based on the Christian Yearbook. B. In parallel with the database, he presented a total of five conference presentations at the Geographical Society of Japan, the Society for Humanities and Geography, the Society for Historical Geography, the Society for Christian History, and the Faculty of Letters Symposium at Nishogakusha University. C. Three manuscripts appeared in the magazine. One of them is a 75 collection of Christian History, a peer-reviewed journal. The rest are Geography (a commercial journal) and Nishogakusha University Essay (a university journal), both of which are not peer-reviewed journals.

研究分野：人文地理学

キーワード：都市 プロテスタント教会 立地 基督教年鑑

## 1. 研究開始当初の背景

筆者はこれまで近代の地方都市に存在したキリスト教の教会施設(以下、教会とする)と地元社会との関係がきわめて動的であり、特に地域社会の諸集団が政治的、社会的情勢の変化を背景として教会を排除した事例を検討してきた。そして、排除された教会が時を経て社会状況の変化や災害を契機として地域社会に再度受容され、地方都市の都市空間の中で教会の物理的・社会的な位置づけが新たに生じたことを解明した(麻生2018)。近代を通じての地方都市の空間の変化に影響を与えたのは数か所の教会であった。そこで、近代を通じて都市空間がより大幅に変容した大都市における多数の教会の位置づけを検討することで、都市空間の近代化に宗教施設が与えた影響を解明しようと考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、明治期から第二次世界大戦終結までの近代全期を対象とした、都市内部およびその周辺地域の教会の立地状況とその変化、言い換えれば近代日本の都市における教会の空間的変遷とその要因を明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

研究には大正期から第二次世界大戦終結時まで発行されていた『基督教年鑑』を用いた。これは各年代の日本国内に存在した全ての教会の住所と牧師の氏名が教団別に記載されたキリスト教関係者向けのデータブックで、日本基督教連盟というプロテスタントの諸教団が組織したグループによって作成、発行されていた。筆者は『基督教年鑑』を1916年から1940年にかけて5年ごとの教会の住所のデータベースを作成し、そのデータを使用して地図やグラフなどを用いた分析を行った。

## 4. 研究成果

この3年間の研究成果は次の通りである。

2020年度は近代日本の主要都市におけるプロテスタント教会の立地状況とその変遷について、『基督教年鑑』を用いて大正期から昭和戦前期(1916年~1940年)の大阪市、神戸市における教会の5年ごと立地状況の変化をデータベースにまとめた。この一連の作業を通じて、各都市内部の細かい立地状況とその変遷を検討することができた。また、プロテスタントの各教団の詳細な立地状況の検討が可能になった。そして、各教団の都市部での教会立地の戦略、言い換えればキリスト教伝道の空間的戦略が都市内部の空間の変化(市街地の拡大や再開発など)と関連する可能性が示された。

そして近代日本の他の都市における教会の立地状況とその動態的变化と、都市空間内部の社会経済的構造と教会立地との詳細な相互関係の解明に向けての道筋が少しずつ示されてきた。

具体的な論文などの成果は次の通り。

(1)京都市を事例に近代以前の都市と教会の関係性について中世から近世を対象に地誌書や宣教師の日記などを用いて分析を行い、その成果をまとめた論文が2020年度発行の『立命館文学』に掲載された。

また、学会発表は次の通り。

(1)に関する研究成果として、本科研申請以前にすでに作成した京都市のデータベースにくわえ、大阪市と神戸市のデータベースを基に、2021年3月のキリスト教史学会西日本部会にてその成果の一部を口頭発表した。

(2)近代の岐阜県大垣市と鹿児島県奄美大島のキリスト教関係の写真資料(都市景観や教会建物の写真を含む)の分析内容を2020年9月のキリスト教史学会で発表した。

(3)近代の奄美大島のカトリック教会関連の写真の分析を2020年10月の日本地理学会秋季学術大会にて発表した。

2021年度は1916年~1940年の京都市、大阪市、神戸市、名古屋市および各府県内全体における教会の立地状況のデータベースから各都市内部と府県内の細かい立地状況とその変遷を検討することが可能になった。また、プロテスタントの各教団の詳細な立地状況も検討可能になった。そして、市街地の拡大や再開発と教会の立地状況とが関連する可能性が示された。具体的な研究成果(論文)は次の通りである。

(1)2020年度にキリスト教史学会西日本部会にて発表した内容を踏まえて京都市と大阪市の比較研究を投稿し、2021年7月発行の『キリスト教史学』に研究ノートとして掲載された。

(2)近代奄美大島の地方都市の景観復原の中で教会の立地が都市の景観と社会に与える影響について検討した内容が2021年4月発行の『月刊地理』に掲載された。

(3)地方都市の教会所蔵の写真資料から教会に関係する都市景観の復元を含めた視覚資料の利用と解釈の試論が2022年3月発行の『佛教大学歴史学部論集』に掲載された。

(4)筆者の調査地である鹿児島県奄美大島の名瀬町の都市景観の分析とカトリック教会をめぐ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

ぐる調査研究についての方法論を示した内容を分担執筆したものを含む『「政治」を地理学する』が2022年3月に発行された。

学会発表は次のとおり。

(1) 2021年8月の歴史地理学会にて京都市、大阪市、神戸市の関西の三大都市におけるプロテスタント教会の立地状況の比較考察を行った(図1~3と表1~3は2021年度歴史地理学会第64回大会発表資料より引用。また、全ての図表は各年度の『基督教年鑑』をもとに筆者作成。)

(2) 2021年11月の人文地理学会大会では京都府と愛知県のプロテスタント教会の立地の比較検討を発表した(図4、表4。全ての図表は各年度の『基督教年鑑』をもとに筆者作成。)

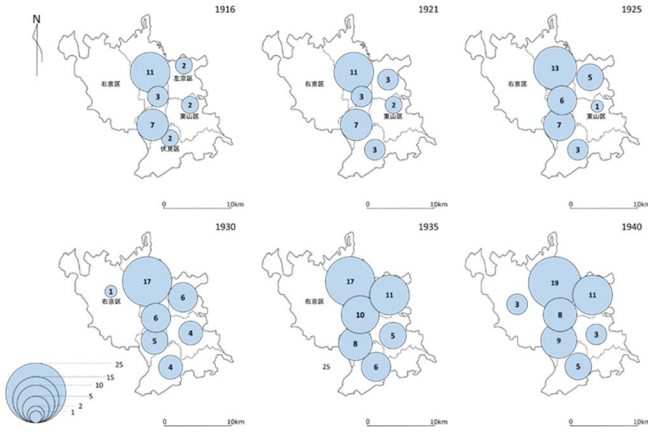


図1 京都市の区ごとの教会数(1916~1940)

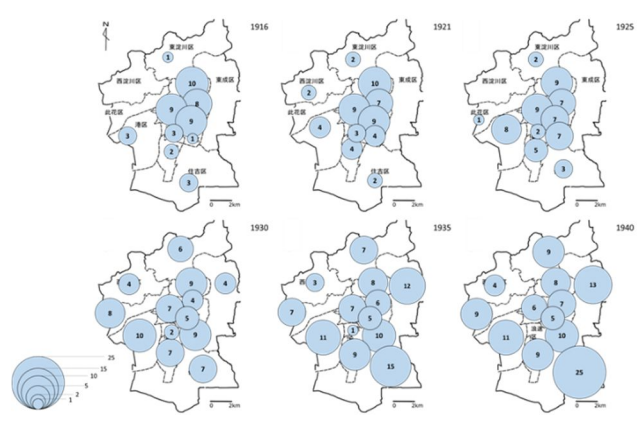


図2 大阪市の区ごとの教会数(1916~1940)

表1 京都市の教会数の変化の詳細

項目 \ 年	1916	1921	1925	1930	1935	1940
総数(ヶ所)	27	29	35	43	57	58
誕生(ヶ所)		4	6	13	21	16
消滅(ヶ所)		2	0	5	7	15
増減(ヶ所)		2	6	8	14	1
変化率(%)		7.41	20.69	22.86	32.56	1.75
(消滅数÷総数)×100(%)		7.41	0.00	14.29	16.28	26.32

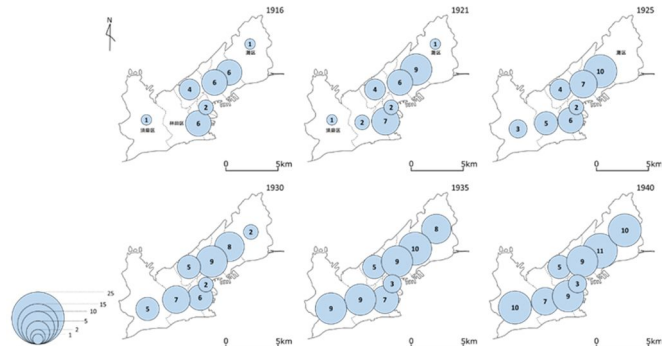


図3 神戸市の区ごとの教会数(1916~1940)

表2 大阪市の教会数の変化の詳細

項目 \ 年	1916	1921	1925	1930	1935	1940
総数(ヶ所)	49	56	60	82	101	116
誕生(ヶ所)		12	10	31	33	32
消滅(ヶ所)		5	6	9	14	17
増減(ヶ所)		7	4	22	19	15
変化率(%)		14.29	7.14	36.67	23.17	14.85
(消滅数÷総数)×100(%)		10.20	10.71	15.00	17.07	16.83

表3 神戸市の教会数の変化の詳細

項目 \ 年	1916	1921	1925	1930	1935	1940
総数(ヶ所)	26	32	37	42	60	63
誕生(ヶ所)		6	8	10	21	14
消滅(ヶ所)		0	3	5	3	11
増減(ヶ所)		6	5	5	18	3
変化率(%)		23.08	15.63	13.51	42.86	5.00
(消滅数÷総数)×100(%)		0.00	9.38	13.51	7.14	18.33

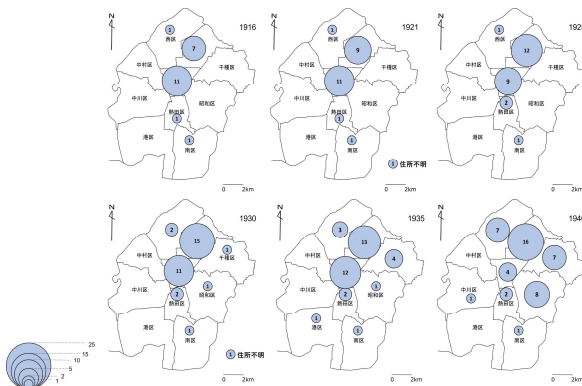


図4 名古屋市の教会の立地状況(1916~1940)

表4 1916~1940年の名古屋市の教会の立地状況

項目 \ 年	1916	1921	1925	1930	1935	1940
総数(ヶ所)	21	24	25	34	37	46
誕生(ヶ所)		4	2	12	10	13
消滅(ヶ所)		1	1	3	7	4
増減(ヶ所)		3	1	9	3	9
変化率(%)		14.29	4.17	36.00	8.82	24.32
(消滅数÷総数)×100(%)		4.76	4.17	12.00	20.59	10.81

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

2022年度の成果(論文、書籍)は次のとおりである。

(1) 1916~1940年の京都市、大阪市、神戸市、そして名古屋市を対象にプロテスタント教会の立地状況のデータベースを完成させ、地図化を行った。また、その成果の一部が「近代日本のプロテスタント教会の立地状況 四府県の比較」と題して『二松学舎大学論集』第66号(2023年3月発行)に掲載された。

一方、学会発表は次の通りである。

(1) 近代の奄美大島の中心都市である名瀬町の景観分析を絵葉書の写真とカトリック側の写真を用いて分析し、地方都市の市街地における教会の立地をもとにカトリック排撃事件の社会的、政治的、地理的背景を分析した内容を2023年3月の歴史地理学会第262回例会で発表した。

(2) 2023年3月4日に二松学舎大学文学部シンポジウムにて「都市の教会からみた近代日本とキリスト教」と題して20世紀前半の東京市と京都市の比較検討の発表を行った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 麻生将	4. 巻 66
2. 論文標題 近代日本のプロテスタント教会の立地状況 四府県の比較	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 二松学舎大学論集	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻生将	4. 巻 12
2. 論文標題 写真資料を用いた宗教研究に関する試論 1910～30年代のキリスト教会を事例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 佛教大学歴史学部論集	6. 最初と最後の頁 19-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻生将	4. 巻 66-4
2. 論文標題 写真資料からみた近代奄美大島のカトリック	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊地理	6. 最初と最後の頁 69-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻生将	4. 巻 75
2. 論文標題 近代の都市部におけるプロテスタント教会の存続状況 京都市と大阪市の比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 キリスト教史学	6. 最初と最後の頁 109-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻生 将	4. 巻 673
2. 論文標題 京都のキリシタン 戦国から江戸	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 138 - 148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 麻生将
2. 発表標題 古写真で見る近代奄美大島の 都市景観とカトリック 名瀬町を中心に
3. 学会等名 歴史地理学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 麻生将
2. 発表標題 都市の教会からみた近代日本とキリスト教
3. 学会等名 二松学舎大学文学部シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 麻生将
2. 発表標題 近代日本の都市部におけるプロテスタント教会の立地と変化 京都・大阪・神戸を比較して -
3. 学会等名 歴史地理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 麻生将
2. 発表標題 近代の愛知県におけるプロテスタント教会の立地傾向 1916年から1940年
3. 学会等名 人文地理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 麻生 将
2. 発表標題 近代の都市部におけるプロテスタント教会の存続状況 京都市と大阪市の比較
3. 学会等名 キリスト教史学会西日本部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 麻生 将
2. 発表標題 教会史研究における写真資料に関する試論 1930年代の2つの教会の比較から
3. 学会等名 キリスト教史学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 麻生 将
2. 発表標題 写真資料から見た近代奄美大島のカトリック 名瀬町を事例に
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 麻生 将、今野泰三、香川雄一、北川眞也、佐久眞沙也加、全ウンフィ、関村オリエ、高木彰彦、畠山輝雄、花松泰倫、福本 拓、二村太郎、前田洋介	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 242
3. 書名 『「政治」を地理学する 政治地理学の方法論』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------